

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000838		
法人名	(有) 優春		
事業所名	グループホームくれよん		
所在地	小樽市長橋5丁目13番4号		
自己評価作成日	平成24年11月25日	評価結果市町村受理日	平成25年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の生活中で1人1人の個性と持っている能力を生かせるよう、生活リハビリに重点を置き家族、地域の方と協力しながら明るく楽しい生活を送れるホームを目指しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0172000838-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階		
訪問調査日	平成 24年 12月 7日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者へのんびりと余生を過ごして頂こうと設計された建物は、食堂兼居間、浴室、玄関ホール及びユニット入口前スペースなどが広く内部全体がゆったりとしています。また、天井に設置の遠赤外線暖房装置や年2回の全体避難訓練をはじめとして毎月実施されているホーム内部の自主訓練など、利用者や家族にとって安心安全のホームになっています。ホームは、開設後の7年間に町内会諸行事への参加や周辺介護事業所と共同開催の夏祭り等には利用者や家族以外に多数の住民も参加して楽しんでおり、地域の一員として日常的な交流を深めています。職員は、理念を理解して利用者へ寄り添いながら暖かく接して一つの家族のようにありたいと思っています。夕食後の入浴実施や回転寿司などの外食、温泉宿泊、海水浴、ボーリングなど様々な外出行事でホーム内のみに偏らない生活の場を提供しており、利用者にとって明るく、変化と楽しみのあるホームになっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々、利用者とかかわりの中で理念を思いながら、地域の方の理解と協力を得られるよう職員同士声を掛け合い、思いやりのあるケアに取り組んでいる。	ホームは、地域との交流と暖かい家族形成を目指す理念を持ち、時には会議等で理念を確認しています。さらに、年度初めには、理念をベースとしてユニット毎にその年の目標を定め、実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の老人クラブに参加したり、会館の清掃、公園の清掃、町内のゴミ拾いなど地域の活動に入居者さんも参加し交流を深めている。	利用者は、町内会行事に積極的に参加をしています。特に町内会婦人部の協力を頂いている周辺介護事業所と共同開催の夏祭りなどに住民や子供たちと共に参加して楽しんでおり、地域との交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所主催の認知症に関する研修会に地域の方の参加を勧めたり、運営推進委員会会議で、ホームの現状を報告し協力体制の強化に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現況・入居者さんの状況・行事への取り組み、反省点など地域包括支援センターや職員、利用者さんにも参加してもらい、広く意見を聞き日々のサービスに生かしている。	運営推進会議は、家族や町内会長、民生委員など多数のメンバーが出席して定期的に開催し、災害対策など専門家の話を聞いたり、意見交換を行いながらホーム運営に活かすよう努めています。	家族の理解と協力を頂くために全家族へ会議録を送付すると共に会議内容の理解と利用者へのサービス反映のため、職員への会議録回覧が望まれます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不安、解らないことがあれば、介護保険課へ相談連絡し指導を受けたり、他機関の相談・助言も受けるようにしている。	市とは常に相談や情報交換を行い、グループホーム協議会などの会議で担当者や接触の機会もあります。また、市の保護課担当者もホームを訪れて管理者と話し合うなど市との協力関係構築に取り組んでいます。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し内容を全職員で共有し話し合い、身体拘束になっているサービスがないか、確認している。又、サービスを実施する際も、拘束につながらないか考えながら実施している。	身体拘束をしないケアについて、実践事例集やマニュアルなどの資料を整備しています。職員は、外部講習会への参加と内部勉強会の実施などで身体拘束をしないケアの必要性を理解して実践に努めており、日中の玄関施錠はしていません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修会への参加、勉強会・ミーティングで虐待や拘束につながるようなことがないか、日々のケアの中で話し合い、見過ごしや防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前利用した方がいて支援し、制度を理解する機会があったが、今後も研修に参加し、いつでも支援できるように体制を作っていくたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、料金・内容の変更時には再契約、リスク 事故対応を解りやすく説明し、理解 納得して上で締結している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の不満や苦情は、会話の内容表情、言葉使いで判断したり、個別に直接聞いたりしている。家族が来訪時に意見や要望を聞き運営に生かしている。	毎月発行の写真入り「くれよんだより」を全家族に送付して利用者の様子を伝え、家族来訪時に状況報告や話し合いで要望等を把握するようにしています。家族からの要望等は、「送りノート」等で管理者や職員に伝え、管理者との相談や会議で協議しながら運営に反映させています。	ホームでは、利用者家族の意向把握のためアンケート調査を検討しています。家族アンケートは、ホームレベルアップの参考資料として有効な手段ですので定期的実施を期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングで意見・提案など聞く機会を作ったり、食事会、飲み会等の場でも、要望や意見を聞いたりして運営に活かしている。	管理者は、日常業務の中で職員と話し合う機会がありますが、さらに、定例会議やプライベートの会合を持ちながら職員の意見や提案を聞くようにして運営に活かすようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務状態をよく把握し、勤務時間や条件の整備など柔軟に対応している。各自がやりがいを持って仕事ができるようよい職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が研修会や勉強会に参加できるようシフトの調節を行い、ケアに対する質のこうじょうに努めたりしている。又、法人相談員による勉強会で指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会主催の研修会や他ホームとの相互研修を行い情報交換を行い、サービスに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で、本人家族からの要望や不安、困っていることを話し合ったり、入所前にホームを見学していただき、安心して入居できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在の状況をよく話し合い、今何が困っているか今までのサービス状況も踏まえてゆっくり話を聞き、その上でどうゆうサービスができるかを細かいところまでよく話し合い、受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に必要としているサービスを確認し、ホーム以外の社会資源が利用可能か否か等も含め、よく話し合い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な関係を築きながら、尊敬の気持ちを持ち、出来ること出来ないことをお互いに協力しあい、感謝の気持ちを常に感じながら支えあっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の生活状況や出来事をこまめに報告や相談したり、行事の積極的参加をお願いし、一緒に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行ってみたいところ、思い出の場所があれば、行動に組み入れ対応している。近隣の友人、知人等の希望がある時は随時訪問したりして支援している。	利用者の馴染みの店、美容院、昔の住居、知人宅など一人ひとりの希望に応じて付き添いながら同行支援しています。知人など来訪者にはお茶やおやつを提供して気兼ねなく過ごせるよう配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう常に目配り、気配りをして互いの長所を活かし調理・掃除を共同でお紺あたりレクリエーションで楽しみを共有し良い関係を築けるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も夏祭りへお誘いや、くれよん通信を送ったりして関係が断ち切れないように努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の思いが生活に反映されるよう職員間で話し合いおう、本人ペースで生活できるようにしている。困難と思われる時は家族と相談し、本人の思いに添った支援をしている。	思いや意向把握が困難な時は、家族への相談、職員同士の協議、利用者の顔色や行動の観察等で把握するようにし、利用者の望むようなサービスに徹するよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人・家族から生活の様子、趣味などを聞き暮らしのシートに記録して残し、これを元に安心して生活が送れるよう支援している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の身体状態、能力やすごしかたをきめ細かく観察し新身心の安定に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活での気づきや変化を毎日の申し送りでのカンファレンスやモニタリングでの課題となることをスタッフ、家族、時には主治医と相談し介護計画を作成している。	担当職員が利用者3人を受け持ち、毎月のモニタリングを通して状態変化がある時は、医療機関や家族と相談しながら介護計画を見直しています。日常の介護記録は、介護計画に連動した分かり易い様式を用い、定例会議で介護計画を全職員の共有とるようにしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録を作成し、日常の職員の気づきや状態の変化まで毎日申し送りで話し合い、常に情報を共有しながらケアプランの評価や立案に活かしている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の利用者、家族の状況に添って、臨機応変に対応できるよう他ホームの協力が出来る体制をとっている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方の協力のもと消防訓練、家族、友人、ボランティア関係の方の参加の夏祭り、運動会を行い安全で豊かな暮らしができるよう支援している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事務所のかかりつけ医のほか、専門医の紹介本人家族の希望に沿ったかかりつけ医の受診援助をしたり複数の医療機関と連携を取り支援している	協力医療機関による隔週毎の訪問診療と運営法人職員の看護師による週2日の支援があります。かかりつけ医への受診も自由であり、受診には主として管理者が付き添い、家族へ病状等を報告しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の異変に気付いた時はホームの看護師に報告し主治医とのれんらくを取りながら適切な受診通院をいつでも行えるよう支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際し、ADLの低下を最小限にするため、早期退院に向けて密に情報交換している。病院からホームへ戻ってからの生活もスムーズに行えるように病院関係者と相談しながら連携を図っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の思いを尊重し、終末に対する方針を十分話し合ったうえで、家族、医師、看護師と連携を取り支持を仰ぎ支援に取り組んでいる。重度化の場合の同意書を作成している。	今年度、医療連携加算体制により重度化や終末期の指針を作成して家族へ説明し、同意書を頂いています。ホームでは看取りの経験もあり、職員の研修も行いながら重度化や終末期のチーム支援体制を整えています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月1回の全体ミーティング時に急変・事故時のマニュアルの確認、ご縁時の対応・心肺蘇生法の訓練など実施している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回ホーム全体で避難訓練を行い実際の災害に備えて、地域の方々と一緒に実施している。	ホームは、年2回の全体避難訓練に加えて、毎月、内部自主訓練を実施しています。さらに、自然災害対策や災害発生を伝える外部ベル警報装置、避難訓練の地域住民参加、備蓄品の用意など災害対策に積極的に取り組んでいます。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格や尊厳を損なわない様、言葉使いや態度に気を付け誇りやプライバシーの保護を図っている。	職員は、利用者へのケアサービスの際に一人ひとりの人格尊重や誇りを傷つけないよう配慮しています。訪問者記入簿や諸記録もプライバシーを損ねないよう留意し、適切に保管しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や思いが表出しやすいよう常に声掛け、会話での表情や言葉から自分で決められるよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その目をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人の生活リズムを観察し その人らしく過ごせるよう個別性を大切にし、声掛け希望に添った支援をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	四季や天候や好みに合わせ服装と化粧に気を付けおしゃれが出来るよう支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立から始まり、メニュー書き調理の味付け、盛り付け、片づけをすべて利用者、職員と共同で行い、利用者の好みや持っている力を最大限に活かし楽しみながら行っている。	職員が利用者の好み等を反映させて献立を考え、協力医療機関栄養士のチェックを受けています。利用者は、調理や盛り付けを手伝い、食事の際は利用者自ら自分の分を運んで席に着き、職員と一緒に会話を交わしながら食事を楽しんでいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1500kCalを目安にバランスの取れた食事や、1日1500CCの水分確保をしながら1人1人の状況に合わせて食材の大きさ硬さを考えながら提供している。また1年に2回協力病院の栄養士にも指導を受けている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後1人1人の口腔ケアの見守りを行い、洗い残しが無いか確認したり、舌下の清掃を行い痛みや異常のある時はすみやかに協力病院に連絡し対応している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を付けることにより1人1人のパターンを把握し自立してトイレで排泄できるよう支援している。オムツを使用することなくパンツでの生活を支援している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを記録し、様子を見ながら声掛け誘導でトイレ排泄に努めています。職員の排泄支援の努力で、殆どの利用者が日中は布パンツを着用して快適に過ごしています。夜間もできるだけトイレ排泄を行うよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容、水分摂取量に十分気を付けながら、排泄パターンを把握し下剤の服用、ラジオ体操を行い運動不足にならない様個々に応じた予防対策をしている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間入浴を基本としているが、本人の希望やその時の体調を見ながら最低2回以上の入浴を確保し、かけ流しによる清潔感、好みの温度調節をし、満足感が持てるよう柔軟な対応をしている。	家族的雰囲気の下で過ごせるよう入浴を夕食後に実施しています。日中も希望があれば入浴可能です。週2回以上の入浴を基本とし、利用者の身体状況や希望を判断しながら入浴支援に努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく体を動かし、夜間は入眠時間を把握し、音・光・温度に配慮し安心して気持ちよく眠れるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に薬書に目を通し、変更・追加・中止があるときは申し送り、日誌に記載し、動き注意点を確認している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の持っている力を最大限に活かし、張合い、やりがいを持てるように観察し、マンネリ化しない様支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や、家族からの情報をもとに散歩や近隣への遠出、外食 イベントへの参加、見学等を通じて様々な外出支援を行っている。	日常的にホーム周辺や公園散歩、買い物、町内会行事やホーム合同の夏祭り及び運動会参加、外での焼肉パーティ実施など屋外へ出る機会が多くあります。さらに、車両を利用して花見、温泉宿泊、海水浴、ボーリング、大型商業施設訪問など多数の外出支援をしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時、ちょっとした買い物や生活用品の購入時は職員同行のもと、一緒に買い物をしたりしている。また、ホームのイベントでお金を使って（偽金）買い物の機会を作り、お金の価値観を忘れないようにしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙など本人の希望に添って支援している。本人と一緒にポストまで投函するなど支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フローア-居室前のディスプレイにも1年を通して季節の物を飾ったり外回りにも一緒に花を植えたりして、安心して暮らせるよう配慮している。	広いスペースの居間兼食堂は、両者の区分が明確になって日中を過ごしやすく、浴室は広い窓で開放感があり、玄関やユニット入口付近も広さに余裕があつて建物内部全体がゆったりとしています。また、天井に設置の遠赤外線方式の暖房やIH厨房などオール電化で安心安全であり、居間兼食堂には季節の飾りや写真などで家族的雰囲気になり、居心地の良い共有空間となっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関、フローア-、居間には利用者同士がゆったりと出来る長椅子を置いたり、それぞれの居場所を確保できるようにしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、本人家族と相談ええ話し合い、使い慣れた物、馴染みの物を持ってきてもらい、配置を考え落ち着いて生活できるようにしている。	居室にはスペースの広いクローゼットと吊りボールが設置されているため、室内の整理に便利になっています。利用者は、馴染みの調度品や品々を自由に配置しながらのんびりと過ごしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人の力を合わせ共同で作業を分担し、人目で分かるように、書き出している。作業をするときは安全に気を付け座ったりしながら1人1人の状態を考え行ったり、ホールや居室の手摺の設置、掲示物は見やすいように配置している			